



「望ましい営農型太陽光発電と地域主導の制度設計」

— 農山漁村再生可能エネルギー法・国の基本方針・市町村基本計画をどう活かすか —

◆開催趣旨

2025 年 5 月から農林水産省が「望ましい営農型太陽光発電に関する検討会」を開催し、その議論の取りまとめを受けて 2026 年 9 月以降に農山漁村再生可能エネルギー法に関する基本方針の改正や関連する省令改正が予定されています。今後、農山漁村再生可能エネルギー法に基づく国の新たな基本方針と、市町村が策定する基本計画によって、各地域における営農型太陽光発電の取り組みに大きな変化が生じ得ます。

この省令改正が行われるタイミングで、制度改正後の営農型太陽光発電のあり方について、行政、自治体、農業、金融、エネルギー、学識経験者、業界関係者が幅広く議論する場を設けるべく、本シンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムは、単なる新制度の説明会ではなく、農山漁村再生可能エネルギー法を軸とした新たな制度の下で、営農型太陽光発電を地域の農業政策・再生可能エネルギー政策・地域脱炭素政策の中でどのように位置づけ、実装していくかを議論する場といたします。

特に、以下の 3 点を中心テーマとして進めます。

1. 農林水産省が示す「望ましい営農型太陽光発電」の方向性
2. 農山漁村再生可能エネルギー法に基づく国の基本方針の解説
3. 今後の市町村による基本計画のあり方と、地域での実装に向けた課題

営農型太陽光発電の不適切案件を擁護しない姿勢を明確にしつつ、農業者の所得向上、地域農業の維持・発展、地域脱炭素、そして食料安全保障とエネルギー安全保障に資する「望ましい営農型太陽光発電」を、制度改正後の枠組みの中でどのように広げていくかを議論する場とします。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

◆開催概要

主催：一般社団法人プラチナ構想ネットワーク 営農型太陽光発電社会実装推進コンソーシアム

日時：2026 年 9 月 7 日（月）13:00～17:00

場所：砂防会館別館 1F 淀・信濃（東京都千代田区平河町 2-7-4）

形式：対面＋オンラインのハイブリッド方式

主な対象者：プラチナ構想ネットワーク会員、政府、自治体、農業委員会、金融機関、農業者、発電事業者、EPC、電力会社、アグリゲーター、研究者、報道関係者 等

◆プログラム

開会挨拶・主旨説明		プラチナ構想ネットワーク会長 小宮山 宏
基調講演 1 :		
制度改正の全体像と「望ましい営農型太陽光発電」の方向性（仮）	農林水産省環境バイオマス政策課 木村 崇之 氏	
基調講演 2 :		
農山漁村再エネ法に基づく国の基本方針の読み解き（仮）	千葉エコ・エネルギー 馬上 丈司 氏	
基調講演 3 :		
市町村基本計画に営農型太陽光発電をどう位置づけるか（仮）	小田原市 青木 一実 氏	
取組事例報告	ヤンマーホールディングス ベジタリア 東京大学/有機系太陽電池技術研究組合 再生可能エネルギー 長期安定電源推進協会	中野 年章 氏 小池 聡 氏 瀬川 浩司 氏 小林 秀幹 氏
（休憩）		
パネルディスカッション :		
「望ましい営農型太陽光発電」を地域でどう実装するか -国の基本方針、市町村基本計画、農業・発電・地域共生の接点-		（パネリスト） 農林水産省 木村 崇之 氏 東京大学 末松 広行 氏 東京大学 瀬川 浩司 氏 クボタ 辻村 克志 氏 中部ソーラーシェアリングやろまい会 北井 久美絵 氏 （コーディネーター） 千葉エコ・エネルギー 馬上 丈司 氏
閉会挨拶		プラチナ構想ネットワーク 平石 和昭